

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100033		
法人名	有限会社 ケアサポート山栄		
事業所名	グループホームこすもす		
所在地	福岡県嘉麻市平山16番地		
自己評価作成日	令和2年3月3日	評価結果確定日	令和2年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年3月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、入居者がそれぞれのペースで穏やかに生活されています。敷地が広く、梅、桜、モミジ等、季節を感じられる木々があり、リビングや居室の窓からもそれらを眺め、楽しむことができます。お天気の良い日には敷地内での散歩も楽しんで頂いています。落ち着いた環境の中で、穏やかに過ごしながらも、季節ごとの行事や、入居者様のお誕生日会も行い、退屈せずに生活して頂けるように心がけています。「目配り、気配り、心配り」の基本理念を、職員一同忘れずに、地域やご家族からのご協力を得ながら、入居者様が「ここにいたい。」「ここに帰ってきたい。」と思って頂ける場所を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年4月の職員会議で新年度の方針を話し合い、基本理念を念頭に、あたたかい安らぎの場づくりや生活の質の向上に努めている。一人ひとりの個性を把握しその方の言動の意味を考えた声かけで、調査日の昼食後リビングで大声で騒ぐ入居者は落ち着きを取り戻された。寝たきりを回避したいと安全な移動を支援したり、拒否や暴言を薬で鎮静化するリスクを理解し、言動を個性と捉えたケアが展開している。運営推進会議後に開催されている身体拘束適正化委員会では、管理者が言葉による拘束についても説明し、支援の在り方の理解を深めてもらっている。率直な意見交換ができる職場づくりで、20代から80代の職員が個々の個性や能力を発揮しながら、「目配り、気配り、心配り」が日々実践され、近隣の高齢者が「自分もここに入れるか」とホームを訪れたり、中学生の職場体験は入居者の楽しみとなるなど、地域に密着したサービスの拠点となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホームこすもす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年4月の職員会議で理念の見直しを行っているが、「目配り、気配り、心配り」という基本理念は変わっておらず、職員間でも共通した理念の元、入居者様それぞれに合わせたケアができるように努めています。	毎年4月の職員会議で、基本理念を念頭に新年度の方針を話し合っている。個々の入居者の情報を共有して個性に合わせたケアに努め、あたたかい安らぎの場づくりや生活の質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に参加し、運営推進会議では地区の役員の方が出席して下さっています。近隣の高齢者の方から介護サービスに関する相談を受けたり、中学校から職場体験で数名の生徒実習の受け入れも行っていきます。	近隣の高齢者が「自分もここに入れるか」とホームを訪れたり、地域の方にホーム前の駐車場を貸したり、敷地内の柑橘類をおすそ分けしている。中学生の職場体験やリビングから見える中学生の持久走は入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方からケアサービスや認知症などに尋ねられることもあり、その際にはわかりやすくご説明する事を心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族、市の担当者、地区役員、介護相談員等、2カ月に一回お集まり頂き、施設の活動内容の報告や意見交換を行っている。また、推進会議の機会を活用し、身体拘束等適正化委員会も併せて開催している。	適切な委員の参加で2か月に1回開催され、議事録を整備し、玄関に自己評価結果とともに公表されている。身体拘束についての質問には管理者が言葉による拘束について説明し、支援の在り方などの理解を深めてもらっている。	運営推進会議の報告を兼ねて、入居者のホームでの様子を満載したのコスモスだよりの発行回数の増加を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月初めに入居者状況の報告を嘉麻市に行っています。また市が開催する研修や集団指導へ参加し、わからない事や相談がある場合は行っています。	市主催のケアプラン研修会でケアプランのチェックに参加し、同業者間の交流や行政との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回程度身体拘束や虐待に関する勉強会を行い、身体拘束にあたる行為の確認をしている。個々の入居者様の認知症の状態を理解する事で「なぜその行動をされるのか。」を考えながら介護し、言葉かけの工夫等で拘束をしなくても良いケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束の具体的な内容を理解し、窓際のベッドを足場にして窓から出られた入居者のベッドの位置を変えている。寝たきりを回避したいと転倒のリスクを家族に説明して安全な移動を支援したり、拒否や暴言を薬で鎮静化するリスクを理解し言動を個性と理解するケアが展開している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議の際に前月までの身体拘束事例の有無の確認をしている。会議の際には職員同士で話し合いを行い、対人援助の大変さを共有し、ストレスをため過ぎる事のないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で成年後見制度や日常生活自立支援事業の勉強も行っている。現在成年後見をご利用中の入居者様がおられ、後見人とも連携して支援をしている。また、成年後見を検討中のご家族にも質問等があればご説明している。	以前日常生活自立支援事業を活用されていた入居者もあったが、現在は成年後見制度を利用されている入居者がいる。後見人の面会は年1回程度だが毎月報告している。	家族関係の多様性から成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットの整備を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約の際には、入居者様、ご家族へ、出来るだけわかりやすくお伝えできるよう努めている。 1度ではわからない事もある為、ご質問等にはいつでも、何度でも対応するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不定期の発行にはなっているが、「こすもす便り」を作成している。ご家族のご面会時に近況の報告をし、入居者様とも普段からよく会話をするように心がけ、言いたいことが言い合える関係作りに努めている。	ほぼ毎日来訪される家族もあるが、来所での利用料の支払いをお願いし、入居者との面談や意見を伺う機会としている。調査日、来訪された家族と気軽に職員は言葉を交わしていたが、入居者が職員に意見を言える関係も構築されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で必ず職員の意見を聞き取るようにしている。また、現場の様子を見守りながら、必要があれば個々の職員と話し合いや聞き取りを行っている。	日々話し合いの時間を設けて情報を共有している。職員会議で食事時間の調整に取り組んだり、洗濯物干し場の足場を干しやすいようにコンクリートにしてもらったり、将棋セットの購入など意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員の置かれている環境にも配慮しながら、勤務時間、日数を決定したり、今後の資格取得への希望の有無や雇用形態についてなど話し合うようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、資格等の理由で不採用となるようなことはない。 やる気があり、チームとして協力し合える人材であれば採用するようにしている。 勤務の希望にもその都度個人の状況を聞き取りながら、無理なく働くことができるように対応している。	20代から80代の職員が紹介で入職し、永年勤務している職員がほとんどである。チームワークを乱さない人材として採用され、その個性や能力の発揮が期待されている。退職3年後復職した職員は、ホームの良さを認識し、助け合ってみんなで職場づくりしたいと話するなど、若い職員も遠慮なく意見を言える職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内での勉強会を行っている。今後は外部研修への参加も積極的にできるようにと考えている。	年度初めに研修計画を立て、人権研修を行っている。拒否や暴言のある入居者も職員たちは無理に介助を行わず、家族にも了承を得てその理解に努め、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度、1名の職員が介護福祉士実務者研修を受講している。今後も職員の希望等聞き取りながら、キャリアアップや自己研鑽の為の研修に参加できるように考えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入しており、協議会の研修等への参加の際に交流している。また市で開催される研修等でも市内の施設の従業者の方達と関わりを持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	難しい言葉を使わずに、わかりやすく伝わるようにお話するよう心掛けている。実際に施設に来ていただき、雰囲気を感じて頂けるのが良いが、入院中などで来所が困難な方は面会を重ね、安心感を持って頂ける世にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護をしてきた中でのご家族の環境の変化や大変さをよくお聞きするようにしている。また、ご本人の前ではお話しづらい事などは、電話で応対したり、個別でゆっくりと対話ができるように工夫している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のご意向を聞くことはもちろんだが、場合によっては利用している介護サービス事業者の意見やかかりつけ医の意向を尋ねるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身の居室の整理や家事の手伝い等、入居者様それぞれが出来る事をして頂くようにしている。特に家事の手伝いなどをして頂いた時などは、職員から必ず感謝の言葉をお伝えするようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の際に、近況のご報告をしながら、入居される前のご家族の事や、現在の状況などもお聞きしている。面会や外出などの支援を気兼ねなくして頂けるよう、出来るだけ細かな制限をせず、楽しんで頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊はご家族の付き添いが必要だが、面会や電話でのやりとりに関しては、ご家族やご本人がお断りされない限り友人、知人でも制限はしていない。	家族宅で夕食を食べて戻られたり、今年の正月は複数の入居者が家族宅に外出や外泊をされている。家族の来訪が少ない入居者には介護相談員に来所をお願いし、他の家族や相談員の方と顔見知りとなっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際には必ず食堂で皆さんが揃ってから食べて頂いる。また席を定期的に替えたりもしている。また引きこもりがちであった入居者様が、趣味の将棋を職員と対局する事で居室から出て来られる機会が増えている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方の面会に行ったり、必要に応じて入居中の状況を転所先の事業者へ情報をお伝えすることもある。ご家族とも手紙や電話などで連絡を続けている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や、ケアプランの更新時、モニタリング時などに意向の確認を行っている。また、言葉にして表す事が困難な方も、普段のやり取りや表情などで意向の把握に努めている。	日々目配り、気配り、心配りを意識して入居者のケアを行っている。少しの体動や表情の変化に気付き、申し送り時や会議の際に意向を把握し、情報共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントでも聞き取りを行うが、施設に馴染まれてから、改めて知ることができる情報も多い為、適宜見直しを行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様それぞれ一日の過ごし方が概ね決まっており、ご自身で出来る事はしていただきながら過ごされている。ただし、体調の変動への気付きが困難な方もいる為、日々の見守りを行い、臨機応変に対応できるよう心掛けている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との対話を基本に、毎日の申し送りや会議の場で現場の職員からの報告や意見を聞いたり、ご家族やかかりつけ医などの意見や要望を聞くことでより良いケアプランになるよう努力している。	介護記録の最初のページに綴じた介護計画を入居時や更新時、会議や申し送り時に確認し、日々の援助に活かしている。活発な職員の意見でモニタリングし、現状に即した介計画を作成している。	細かく分析されたアセスメントシートを経時的な記載や評価をすることで、より具体的な支援計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書き方を勉強し、より具体的に、その場になかった人にも伝わるような記録を残すよう話し合っている。書いた記録は回覧し、情報の共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態の変化には日々関わっている職員が一番に気づき、状況に合わせた対応ができるようにしている。ご家族様の状況についてもご相談を受けた場合には話し合いをし、出来るだけの支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協や地域包括支援センター等とも必要に応じて連絡を取り合ったりして、「地域で支える」事ができるように努めている。医療関係者やご家族との連携も密に行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からの定期的な往診を受け、日々の健康管理を行いながら、状態の変化やご本人、ご家族の希望があった場合には、主治医と相談の上、専門医への受診ができるように支援している。	入居前のかかりつけ医の定期受診に家族や職員が同行したり、往診される主治医もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。週1回訪問看護師による健康管理が行われ、判断に迷えば24時間対応が可能のため、職員の安心となっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週に一度の訪問での健康管理と、緊急時にはいつでも連絡し、必要に応じて訪問するなどの対応ができるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーからの依頼があった場合は、アセスメントシート等ご本人の情報の提供が早期にできるように準備している。入院中も面会や電話などで状態を伺いながら退院に向けて話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針の整備をし、終末期に向けたご本人、ご家族の意向は何っており、終末期や看取りに関する研修にも職員が受講しているが、現在迄の所看取りは行っていない。	入居時意向の確認はしているが、最後は医療機関での意向がほとんどで、経口摂取できなくなりぎりぎりまでホームでの生活を支援している。医療的な処置が必要になれば医療機関へと家族に説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は職員が外部研修を受け、普通救命講習を受講。その後の職員会議で救命処置等についての勉強会を開催した。 マニュアルの整備もしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、見直しも行っている。年に2回の避難訓練も行っている。 避難場所や避難経路、避難時の必要物品等も訓練時に確認している。	昨年11月は水害時の避難訓練、3月は火災時の避難訓練を水消火器で訓練している。普通に食べられ、持ち運びしやすい食料を準備し、入居者の持ち出し書類として、フェイスシートや緊急連絡先、保険証の写しなど整備し、備蓄用のカバンに入れ準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や言葉使い等については勉強会を含め、日頃から注意している。	一人ひとりの個性を把握し、その方の言動の意味を考えて声掛けている。調査日の昼食後リビングで大声で騒ぐ入居者に、職員は静かに声かけながら少しずつ近づき、デッキを眺めながら普通の声で話せるまでに落ち着かせていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	焦らせたり、強制する事のないよう心掛けている。わかりやすく、聞きやすい言葉かけや身振り手振りなども加えながら、入居者様との対話を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しくリズムのある生活が出来ることが最善であるが、お天気や、その日のご気分によってもそれぞれ違ってくるため、無理強いすることなく過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族とも連携し、季節ごとの衣替えや衣類の購入をしている。 毎日お化粧をされる方等、それぞれのご希望に合わせている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる献立(おせち料理等)の工夫をしている。入居者様のたべたいものを聞き取ってメニューを決めたり、お手伝いができる方には下膳などをして頂くこともある。	職員たちが好みを聞き取り献立を作っている。昼食は希望の麺類が多いが、おかずを混ぜ込む方には丼風にしたり、粥にせず普通食をゆっくり個々のペースや介助を受けて摂取している。調査日は季節の土筆が食材に使われ、日頃も敷地内でとれた土筆や金柑、蜜柑が食卓に並び、食事を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水量のチェックは毎日行っている。体調の悪化などによっては、高カロリーゼリーでの摂取や、ご本人が食べたいものを食べて頂くなどの工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様それぞれの能力に応じ、自身で歯磨きをして頂いたり、介助での口腔ケアを行っている。必要に応じ、歯科医による定期管理や処置を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事の前後など定時のトイレ誘導、声掛けをしている。尿意や便意を訴えられない方も、日頃の観察で尿意を催した時の行動パターン等を把握し、その方のタイミングで誘導できるようにしている。	体調不良でおむつを使用したり、自立されている入居者もあるが、原則としてトイレ排泄を支援している。無理強いすることなく入居者の思いに合わせて自立支援に取り組み、拒否や暴言のあった入居者も今は自分でトイレに行くこともある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談しながら内服薬の調整をしている。出来るだけ薬に頼らず排便できるよう、水分補給等に心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は介助者1名でお一人づつの入浴を行っている。ご本人の外出などのご予定や体調などに合わせ、入浴日の変更や順番の変更もやっている。	週2回の入浴を目途に、一人介助で入浴を支援している。入浴時毎回壁を叩くなどして入浴拒否をしていた入居者は複数の職員でできるだけ短時間で支援することで、最近は拒否をしながらも毎回入浴できるようになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間もそれぞれの方に合わせている。就寝前の過ごし方も自由にして頂いている。寝具は理念交換を定期的に行い、保清に努め、布団を干したりもしている。室温の調整も快適な温度になるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての変更などはその都度申し送りをし、職員会議でも確認している。薬によっては状態に合わせて調整が必要なものもある為、管理者への報告を必ず行うようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴も考慮し、得意の将棋を職員と楽しまれたり、テレビを見て過ごされたり、家事のお手伝いをして頂くことで活気を持って過ごされている方もいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外への外出は、病院受診以外のご家族の付き添いを原則としている。施設の敷地内の散歩などはご希望があれば行っている。介護の重度化もあり、思ったように外出支援ができていないが、年に一度近隣の福祉センターへの外出は続けている。	季節の花見など行事計画を立てて庭の桜の木の下でバーベキューなど楽しんだこともある。家族と外出される方もあるが、全員での外出は少ない。施設内のワックスがけの日だけは全員で福祉センターで1日過ごすのが恒例で非日常を味わっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にカギがかからない事もあり、現金や貴重品は事務室にてお預かりしている。ご本人やご家族からの要望によりお買い物の支援を行ったり、お孫様へのお小遣いなどに使われる方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人、友人の方との電話の取次ぎや手紙の受け渡しなどの支援をしている。年末にはご家族にあてた写真入り年賀状を作成し、できるだけ入居者様自らに年始の挨拶の言葉を書いて頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓からは外の敷地内の木々や外の景色が良く見え、季節ごとの変化を楽しんで頂いている。 施設内も毎日の清掃に力を入れており、トイレ等の臭いへの配慮もしている。	玄関を入ると広い廊下とリビングの大きな窓が見え、清潔で明るい空間で、大きなテーブルと椅子、大きなソファが置かれている。テレビの日とCDの日が決められ、リビングに音楽が流れるときもある。空調や換気に配慮され、厨房からの食事作りの音やにおいが漂い、落ち着いた寛げる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様によって気に入った場所(ソファ等)があり、歌謡曲を聞いたり、テレビを見たり、外の景色を眺めたりと思い思いに過ごす事ができている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を使って頂いたり、ご家族の写真や、ご家族の書かれた絵を飾っておられる方もいる。ベッドや家具の配置も、ご家族やご本人と相談しながら、居心地よく過ごしやすい空間になるように支援している。	入居者の顔写真と表札がかかった引き戸が並び、居室間違いを防いでいる。窓からの陽光が明るく家族写真がほほえましく並べられたり、ベッドの位置に配慮し、窓下から出口までL字型に長い手すりが設置されて、安全で快適な居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンフロアで見渡しが良い造りになっている。居室の扉にはお名前とご本人のご希望の了承があれば写真も貼り、わかりやすく工夫している。		